

# メディア と LGBT

“ホモネタ”って笑っていいの？



**荻上チキ**  
シノドス編集長

**牧村朝子**  
タレント 文筆家

**渡辺一樹**  
BuzzFeed 記者

メディアでは、依然として同性愛者やトランスジェンダーを笑いの「ネタ」として扱うなど、偏見や差別を助長する取り上げ方がされています。このことが、受け手の中で偏見を内面化し、セクシュアル・マイノリティに対する差別・抑圧につながっているのではないかと。様々なメディアで活躍中のパネリストたちとともに、メディアとLGBTについて考えます。

<内容> ・基調報告 (LGBTに関するメディアの取り上げ方について) ・パネルディスカッション 等





# 『セクシュアル・マイノリティの法律相談』 出版記念シンポジウム

# メディア と LGBT "ホモネタ"って笑っていいの？

近年、LGBTを含むセクシュアル・マイノリティの人権問題について関心が高まる一方で、インターネットやテレビ、新聞、雑誌などのメディアでは、同性愛者やトランスジェンダーを笑いの「ネタ」として扱ったり、芸能人が同性と交際しているかもしれないという情報を「ホモ疑惑」「レズ疑惑」などの見出しを付けて報道するなど、偏見や差別を助長する取り上げ方がされ続けています。

私たちの日常生活でも「あいつ、ホモっぽいよね(笑)」といった「ホモネタ」に象徴される差別発言が依然として飛び交い、いじめや自殺も絶えません。メディアの差別的な取り上げ方が、受け手の中でセクシュアル・マイノリティに対する偏見を内面化させ、差別発言、いじめ及び抑圧につながっているのではないのでしょうか。

性的指向や性自認にかかわらず、すべての人の人権が尊重される社会を実現するため、様々なメディアで活躍中の方々をパネリストにお招きし、メディアにおけるセクシュアル・マイノリティの取り上げ方、伝え方の歴史や現状に焦点を当て、一緒に問題点と改善策を考えます。

<内容> ・基調報告 (LGBTに関するメディアの取り上げ方について) ・パネルディスカッション 等



## 荻上チキ

評論家 シノドス編集長

1981年生。著書に『ネットいじめ』(PHP新書)、『社会的な身体』(講談社現代新書)、『いじめの直し方』(共著、朝日新聞出版)、『ダメ情報の見分け方』(共著、生活人新書)、『セックスメディア30年史』(ちくま新書)、『検証 東日本大震災の流言・デマ』(光文社新書)、『未来をつくる権利-社会問題を読み解く6つの講義』(NHKブックス)、編著に『日本を変える「知」』『経済成長って何で必要なんだろう?』『日本思想という病』(以上、光文社SYNODOSREADINGS)、『日本経済復活一番かんたん方法』(光文社新書)など。



## 牧村朝子

タレント 文筆家

株式会社オフィス彩所属。2013年、フランスでの同性婚法制化とともに、フランス人女性と結婚。現在は東京を拠点とし、各種媒体への執筆・出演を続けている。夢は「幸せそうな女の子カップルに「レズビアンって何？」って言われること」。著書『百合のリアル』(星海社新書)、「ゲイカップルに萌えたら迷惑ですか?~聞きたい!けど聞けない! LGBTsのこと」(2016、星海社)ほか。



## 渡辺一樹

BuzzFeed 記者

新聞記者、雑誌記者・編集者などを経て、2016年より現職。主な執筆分野は、司法・労働・LGBT、政治など。アウティングを受けた一橋大学ロースクール生の転落死をめぐる裁判や、トランスジェンダー女性が男性更衣室を利用するよう言われた裁判などを取材している。Twitterアカウント @\_gl\_hf。

主催：東京弁護士会  
担当委員会；性の平等に関する委員会  
問い合わせ先：人権課 TEL：03-3581-2205

丸ノ内線「霞ヶ関」駅  
B-1b 出口  
千代田区霞が関 1-1-3

